

すなお

令和3年10月号



おやのことば

事情に善いと思うても悪い事もある。悪いと思うても善い事もある。一度二度三度まで聞いて思う処、これと思えば、それで心に押し付けて了うがよい。

明治三十年一月二十六日

以前、厳重な感染対策の中、本部月次祭を厳かにそして真剣につとめることが出来たことを報告しましたが、今回もおつとめ以外のことを心配することがほとんどなく、一番大事なことを一番しつかりとつとめさせてもらえたと思います。皆さんには今回の周年祭を迎えるにあたり、コロナ禍という異常な状況にあっても心乱すことなく真実につとめ、伏せ込んでいただき本当にありがとうございました。

これからも私達は生きている限り、今日の目標、今月の目標、今年の目標と前に向かって進んでいきます。そのように神様は私達人間を設計しておられます。今回を最終ゴールとすることなく、次なる成長・成人を楽しみに進ませていただきましょう。



「結構や、勿体ない」

田中道則

先月の8日に照子ばあちゃんが満94歳で出直しました。孫の僕らは本当に愛情いっぱいではあちゃんに育ててもらいました。親会長さん親奥さんが今治に布教に来られて一番初めにいがけして下さったのが田中家で、ばあちゃんがまず神様のお話を聞かせてもらうようになりました。ばあちゃんの信仰のおかげで今の結構な姿があります。いつも「結構や、勿体ない」と口癖のように言っていました。信仰初代の真っ直ぐな心を受け継ぎ、自分の代で更に前進していきたいと思います。ばあちゃんが元気に生まれかわってきてくれるよう日々陽気につとめていきたいです。



すなお (立教184年10月号)

通 巻
發行所

No.735
天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
0898-23-5004

FAX 0898-23-5123
發行日 2021.10.16
二宮英治

責任者



こころ次第

野間龍二

今回、2度目の修養科に志願させていただきましたが、9月24日におぢばに到着してから一週間くらいは、以前と違って、ギスギスした印象を受けました。

でもそれは、おぢばが変わったのではなく、私の心通りの鏡でした。

あるきっかけで、心が変化すると、予期もせず 親神様、おやさまに足していただき、ポカポカした喜びの修養科生活に変わりました。

本当に心次第の不思議を感じさせていただきます。

まだまだ、始まったばかりですが、周りのみなさんをポカポカさせるよう勤めていきたいです。



自分自身と向き合う時間

椿 信代

すなおの原稿を書かせてもらうようになって約1年半ほどが過ぎました。たまに自分の書いたメモ帳を見返しては数ヶ月前の出来事やそれに対する自分の思いを振り返り、かつて反省した未熟な心づかいを今は直せているかなと思案することがあります。

元々、自分の気持ちを言葉にするのが苦手で毎月原稿を準備するのに（今も）四苦八苦しているのですが、素直な気持ちを文章にしようとして自分自身と向き合う時間ができると感じます。特に昔は教会で神様のお話を聞きながら皆で論じ合う場も多かったのですが、今の生活ではなかなかそういう機会がないのでこの原稿執筆は大変ながらも大切な時間です。

たまに遠方の家族や遠い親戚の皆さんから「読んでるよ」と言われることがあり（多少の恥ずかしさもありつつ…）、気軽に会うのが難しい時代に神様の御用を通して繋げていただいているのかなとありがたく思っています。日々の心づかいを見直し成人させていただけるよう、また来月以降も素直な心でつとめさせていただきます。

編集後記

中和大教会の130周年祭のおつとめをYouTubeのライブで見させて頂きました。改めて130年と言うのは簡単なことではないと感じました。（編集者K）

離れて分かったありがたさ

二宮りえ子



私の実家は長崎でスイミングセンターの経営に携わっています。来年でオープンして40周年を迎えるが、今年に入りコーチが2人辞めたうえ、弟が体調を崩し7月から修養科に入る事になり、困っていると聞いたので、6月20日から10月1日まで、思い切って長崎に帰らせて頂きました。私は結婚前に6年間、センターでコーチをしていた経験があるので少しでも力になれるかなと思ったからです。

到着した次の日から、早速スタート。毎日3時間から4時間水に入り、主に初心者コースの子供達の指導を担当しました。ところがやる気はあるものの、生活の変化、酷暑の夏に体がついていかず、情けない事に2週間足らずで体調を崩し風邪をひいて寝込んでしまいました。

30年と言う歳月も大きなもので、コーチの感覚を取り戻すのに想像以上に時間がかかり、正直大変でした。また昔と違って発達障害の子ども達が多く、指導の難しさを感じました。他にも家族経営ならではの気遣い、しんどい事、辛い事等ありましたが、会員さんとの触れ合いの中で嬉しい事、楽しい事もたくさん見せて頂きました。

新しい事をしてると時間の流れが遅く感じると言いますが、3ヶ月が半年くらいに長く感じ、9月に入るとだんだんと愛媛に帰りたいと思うようになり、車で迎えに来てくれた祐也君の顔を見たら「これでやっと帰れる」と心底ホッとした。離れてみて今治の良さ、教会の良さが本当によくわかりました。大教会の130周年祭という節目の年にとても良い経験をさせて頂きました。

これからも小さな事で不足せず、日々なって来ることを喜んで、親神様・教祖にもたれて通らせて頂きたいと思います。

教会ニュース

修養科入学

今月1日より野間龍二さんが2回目の修養科に入学され、身体的に不自由な中ではありますが、周囲の方々にも応援していただきながら勇んでつとめてくれています。